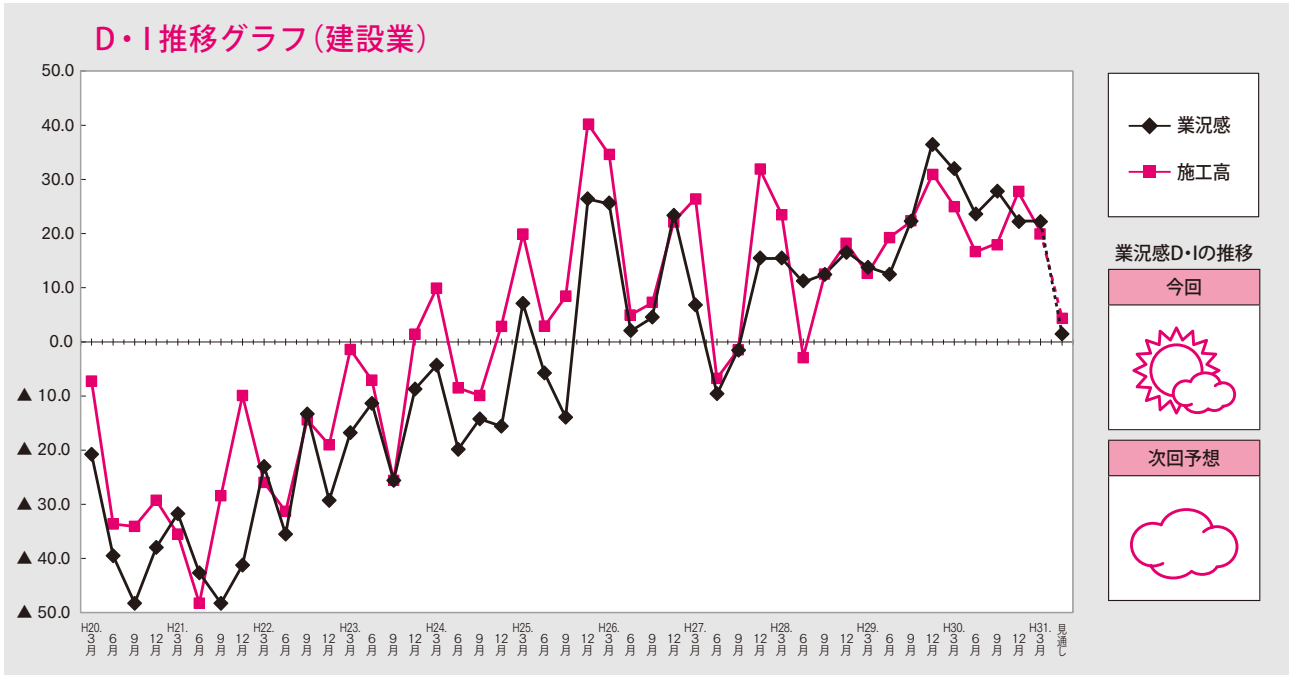


# 建設業

Construction industry

# 業況感依然好調



## 1 今期 (平成31年1 - 3月期)

建設業の業況感は、今期22.2（前期22.2）と前期同様の高水準を維持。施工高・収益・請負価格は減少したものの、好調を維持。在庫は0.0と適正在庫であり改善が見受けられる。

人手に関して今期は34.7（前期29.2）と依然として人手不足が続いている。離職率の改善等、各事業者が取り組まなければならない課題である。

## 2 来期の予想 (平成31年4 - 6月期)

来期の業況感は1.4ポイントとD・I値が大幅に低下。施工高・収益・請負価格もプラスであるが、好調に陰りが見えてきた。工事が少なくなる夏に向けた、事業者の慎重な姿勢が見受けられる。材料価格は▲16.7と9.7ポイントの改善が見込まれるが、今期同様、人手不足の解消が優先的な課題となるだろう。

## DI値の推移 (過去1年と3カ月後の予想)

	H30. 3月期	H30. 6月期	H30. 9月期	H30. 12月期	H31. 3月期	来期 見込み
業況感	31.9	23.6	27.8	22.2	22.2	1.4
施工高	25.0	16.7	18.1	27.8	20.8	4.2
収益	25.0	18.1	19.4	27.8	12.5	6.9
請負価格	4.2	4.2	8.3	9.7	8.3	6.9
材料価格	▲18.1	▲13.9	▲20.8	▲29.2	▲26.4	▲16.7
在庫	8.3	▲2.7	▲1.4	▲2.8	0.0	6.9
資金繰り	8.3	5.6	4.2	1.4	1.4	▲4.2
人手	25.4	22.2	15.3	29.2	34.7	30.6
設備状況	4.2	7.0	2.8	5.6	4.2	4.2

## 業況調査メモ

近年、山間部の道路を車で走ると木材を積んだトラックが頻繁に行き交い、道路沿いの空き地等に山から伐り出されたばかりの木材の山ができていく光景を目にすることが多い。中国向け等の輸出、バイオマス発電などの好調な需要が背景にある。これに加え、耐火性や耐震性に優れ、3階建て以上の木造中高層施設の建設が可能な直交集成板（CLT）の開発など木材の高付加価値化も進んでいる。始良市では昨年1月、木造3階建て賃貸アパート（12世帯）が完成した。鉄筋コンクリートと比べてコストを1割ほど抑えられたという。CLTの利用促進を県内林業の復活と持続的な活性化につなげたい。